

夏秋トマト雨よけ栽培のコナジラミ類を防虫ネットで防除する

福島県農業総合センター 生産環境部

1 部門名

野菜 - トマト - 病害虫防除

2 担当者

荒川昭弘・岡崎一博

3 要旨

夏秋トマト雨よけ栽培でのコナジラミ類の効率的防除を目的とし、物理的防除資材の防虫ネットを展張し効果を検討した。また、防虫ネットの展帳により晴天時の施設内温度上昇が認められたので、対策として遮光資材の利用を検討した。

- (1) 0.3mm × 0.4mm目合いの防虫ネットを開口部に展帳することでコナジラミ類はほとんど発生しなかった。その他の害虫も発生は少なかった。
- (2) 防虫ネットの展帳により、晴天時には施設内の温度が約6℃上昇した(図2)。これは遮光資材を使用することで緩和された。
- (3) 生育では草丈が長く、徒長気味となった(図3)。収量は遮光ネットを随時開閉した場合に多く、常時展張した場合に少なくなった(図4)。
- (4) 病害では灰色かび病の発生は慣行区とほぼ同等であった。
- (5) 以上のことから、トマトの雨よけ栽培ではコナジラミ類の防除法に防虫ネットが有効であるが、晴天時などには施設内温度が高くなるので遮光ネットの使用が必要であった。収量への影響を考慮し、遮光ネットは開閉したほうが望ましい。

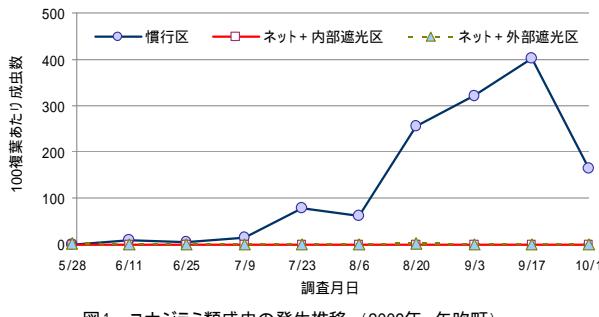


図1 コナジラミ類成虫の発生推移 (2009年、矢吹町)

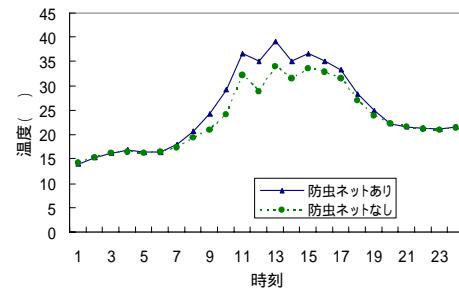


図2 防虫ネット展帳時の施設内温度

遮光処理なし、2008年8月27日 (日照時間: 6.6時間)

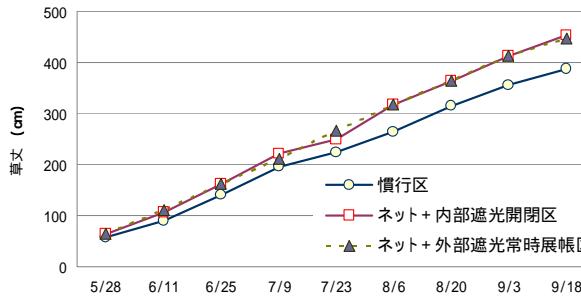


図3 草丈の推移 (2009年、矢吹町)

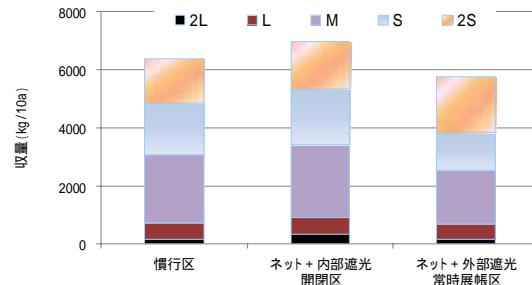


図4 収量の比較 (2009年、矢吹町)

A+B級品

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20～21年度農業総合センター試験成績概要(2008～2009)
- (2) 平成19年度普及に移しうる成果「夏秋トマトの夏期遮光による裂果軽減効果」(2007)